

科目名	環境資源循環工学	科目コード A3090
-----	----------	----------------

専攻名・学年	環境都市工学専攻 1 学年 (プログラム3 学年)	担当教官	田中一浩 (環境)		
単位数	2 単位・選択	開講期間	後期	時間数	30 時間
				内訳 <small>(時間)</small>	講義(28), 演習(0) 実験(0), その他(2)
教科書					
補助教材	配布資料				
参考書					

A 科目の概要	
<p>廃棄物の現状、資源・エネルギー消費量からみた社会システムのあり方、廃棄物関連の法体系、省エネ・省資源の評価ツール、リサイクルの現状、廃棄物の処理・処分方法から循環型社会の構築について学習する。</p>	
B 到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1．省資源、省エネルギーに関する社会状況を理解する。 2．廃棄物に関連する法体系を理解する。 3．ライフサイクルアセスメントの意義と概念を理解する。 4．日本における廃棄物の現状を理解する。 5．中間処理と最終処分の手法を理解する。 	
C 長岡高専の学習・教育目標との対応	(D)
D 履修上の注意	
<p>廃棄物問題はわれわれ国民が当事者であることを踏まえて受講してほしい。</p>	
E 評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1．省資源、省エネルギーに関する社会状況についての設問により理解度を評価する。(20%) 2．廃棄物に関連する法体系についての設問により理解度を評価する。(20%) 3．ライフサイクルアセスメントの意義と概念についての設問により理解度を評価する。(20%) 4．日本における廃棄物の現状についての設問により理解度を評価する。(20%) 5．中間処理と最終処分の手法についての設問により理解度を評価する。(20%) <p>定期試験を1回実施(40%)する。レポートを2回提出させる(50%)。授業に取り組む態度(発言、質問回数等)も評価に加味する(10%)。</p>	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	廃棄物問題の考え方	
2	環境問題と資源の枯渇予測	
3	省資源への取り組み	
4	日本における廃棄物問題の法律	
5	ライフサイクルアセスメント	
6	ISO14000s と環境報告書	
7	環境報告書の調査報告会	
8	リスクマネジメント	
9	リサイクルの必要性	
10	リサイクルの現状	
11	廃棄物処理の流れ	
12	廃棄物の中間処理と最終処分	
13	ごみ焼却炉と廃棄物最終処分場の現場見学	
14	ごみ焼却炉と廃棄物最終処分場の現場見学	
15	試験	
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		